令和６年度

全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

児童、生徒への指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が今年4月に行われました。日野学園でも、前期課程6年生の児童と後期課程9年生の生徒が、国語と算数・数学の2教科と、質問紙調査（生活習慣、学習意欲・学習環境などの調査）を行いました。

前期課程では

▼国語は全国平均正答率（以下、全国値）を上回りましたが、算数は全国値を下回る結果でした。

国語については、「我が国の言語文化に関する事項」と「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国値を下回りましたが、その他では全国値を上回る結果でした。

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるように、漢字の定着を図る必要があります。また、日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つと気付くことができるように、読書カードの活用を図るなどの体験が必要だと考えられます。

算数については、「図形領域」と「データ活用領域」において全国値を下回りましたが、その他では全国値を上回りました。

「図形領域」では、球がぴったり入る立方体の体積を求める問題で、立式をする際に球の直径と立方体の一辺の長さの関係を結び付けることに課題がありました。また、折れ線グラフを読み取り、そこから考察したことを表現することや、グラフを式に表すときにグラフのどこを見ればよいかを、他者に分かるように伝えることに課題があることが分かりました。

▼学習に関する興味・関心・規範意識・自己有用感について課題があります。

児童・生徒質問紙調査（以下、質問紙）について、肯定的な回答が9割以上で、その内2割の回答で全国値を上回りました。

教科への関心や必要性、授業に対する理解度などについても、例年通り高い値でした。昨年度の調査で課題としてあげられていた「記述式の問題への取り組み方」については、「最後まで解答を書こうと努力した」という回答が全国値より高く、国語では9割を上回る結果でした。回答時間が不足していても最後まで問題に取り組もうとする様子がうかがえました。

例年課題となっている規範意識・自己有用感については、今年は全国値を大きく下回りました。地域や家庭で児童・生徒を褒めたり認めたりするなど、肯定的な声掛けを継続していくことが必要です。

また、基本的な生活習慣の項目では、生活習慣を見直すために就寝時刻の見直しを図り、起床時刻の改善につなげる必要があります。

後期課程では

▼国語、数学で全国値を下回る結果でした。

国語については、「我が国の言語文化に関する事項」は、全国値を上回りましたが、その他は下回る結果でした。

問題形式別では、特に「記述式」の問題に対する正答率が大きく下回る結果でした。文を組み立てる文節の順序や文節の前後の関係を整えられるかをみる問題では、効果的な修飾語の活用の仕方を短文作成の中で身につける必要があると考えられます。また、物語の最後の場面を書く問題では、二つの条件のうち、一方は満たすことができましたが、もう一方を満たすことができず、正答とならなかった解答が多く、質問の意図を読み取る力を高める必要があることが分かりました。

数学については、平均正答率からみると、どの領域も全国値を下回りました。

特に「図形領域」では、全国値を大きく下回る結果でした。三角形の合同を証明する問題では、筋道を立てて解答する必要があり、手順を踏むことの複雑さに無解答も見られました。また、問題形式別では、記述式の問題が全国値を大きく

下回る結果でした。
　国語も数学も記述式の問題に課題が見受けられるため、書くことや読むことなど、両教科を横断的に見た課題の分析や対策が必要と考えます。

▼国語の学習に対する興味・関心・意欲、規範意識・自己有用感は上昇しましたが、生活習慣・学習習慣に課題がみられます。

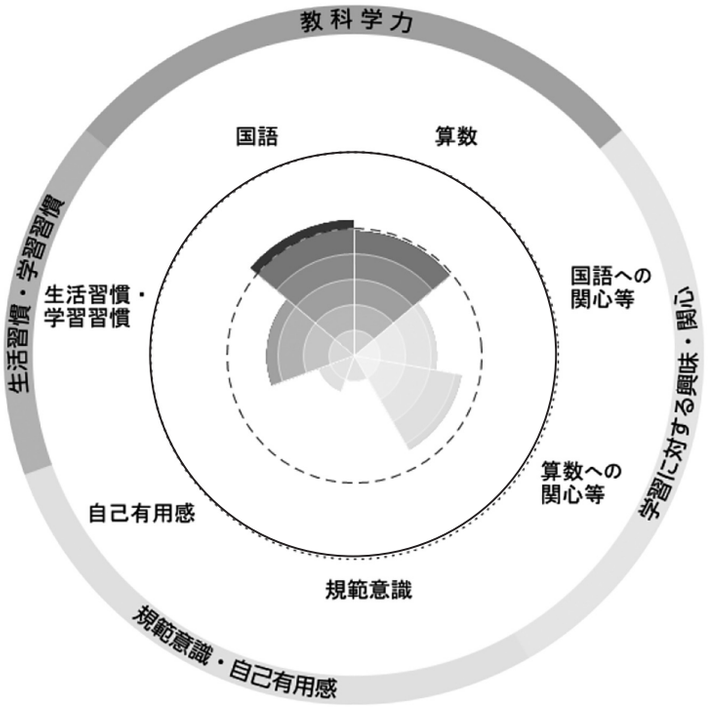
　質問紙調査について、肯定的な回答が９割以上で、その内３割の質問で全国値を上回っていました。また、例年課題に挙げている規範意識や自己有用感については上昇し、ほぼ全国値となりました。
　特に、一昨年度と同様「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった」との回答が国語でも数学でも多く見られました。一方で、回答時間を全て活用して問題に取り組むことはできており、始めから諦めていた訳ではないことがうかがえ、学習の十分な理解が必要であると考えられます。
　国語に対する興味・関心や将来への有用感などの項目については上昇傾向にあるものの、数学に対する興味・関心や将来への有用感の項目については全国値を下回り、改善が必要だと考えられます。
　また、ＰＣやタブレット端末などのＩＣＴ機器の効果的な利活用に関わる項目に対しては、昨年同様にほぼ全国値と同じか下回る結果でした。ＩＣＴ機器の効力感の質問に「すぐ調べられる」「画像・音声などの活用でよくわかる」などの回答がありました。その利点を生かして、効果的にＩＣＴ機器の活用を図っていく必要があると考えます。

成果のみられる部分

■前期課程では、国語、算数ともに「将来社会に出たときに役に立つと感じている」という質問事項についての肯定的な回答が高く、児童の学習に対する重要性や必要性についての意識の高さがうかがえます。
■後期課程の国語では、学習に対して好意的で学習の重要性や学習したことが将来社会に出たときに役に立つと認識している回答が高く、生徒の学習に対する前

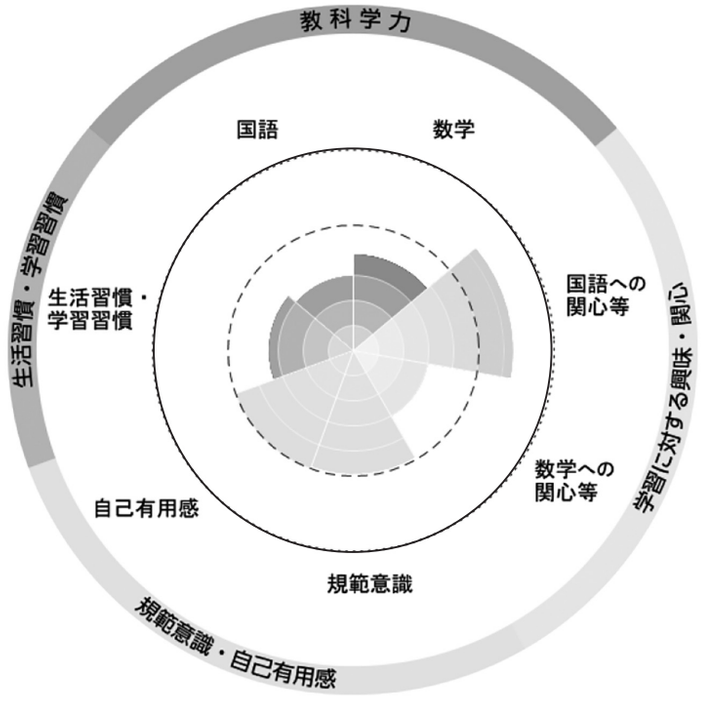
調査結果チャート（前期課程）

＜児童生徒＞児童質問紙（全国基準）



調査結果チャート（後期課程）

＜児童生徒＞生徒質問紙（全国基準）



▼各教科は正答率、ほかの項目は質問紙調査での肯定的な意見を、全国平均と比較して表しています。
▼中央の ------ 線は全国平均です。------ 線より外側に出ている項目は全国平均以上、------ 線より内側は全国平均未満を表しています。外に広がっている項目ほど、正答率が高い、肯定的な意見が多い結果を表しています。